

## ニンジンのカルテック栽培

(10アール当り)

|                    |                                   |  |
|--------------------|-----------------------------------|--|
| 土作り                | ※なるべく早めに。<br>播種までに20日<br>以上おいて下さい | <p>堆厩肥 1トン以上 (なるべく多く)<br/>※堆厩肥・有機物が無い場合は、米ヌカ150kg(土壌の状況に応じてはそれ以上入れることもあります)。<br/><b>ラクトバチルス 600グラム</b><br/>※排水(通気)・保水・保肥性のよい土壌にします。<br/><b>硫安 80kg~100kg</b><br/>※もし通常の配合肥料を使う場合は、チッソ成分で16~20kg。(硫酸カリ 20kg … 砂地で堆厩肥が乏しい場合)<br/><b>畑のカルシウム 60kg</b> (酸性土壌なら80~100kg)<br/>※カルシウム栄養供給とともに、土壌酸性の中和も行ないます。<br/>白絹病・根部の腐敗が心配な畑では、特にしっかりと中和して下さい。<br/>土壌pH 6.0~6.5となるように調節して下さい。<br/>畑土が酸性でない場合は <b>カルテックCa粒状</b>とします。<br/>※カルシウムの施用は 整地後、ウネ上への散布でも構いません。</p> |
|                    |                                   | <p>上記4種を同時に散布して、耕し、整地します。<br/>播種したニンジンの発芽・発根と初期生育には、土の湿り気の安定が必要です。土作りと散水に注意して下さい。</p>  |
| 播種直前               | 播種直前の散水時<br>(または播種後4~5日中)         | <b>濃縮酵素液</b> を適宜薄めて 灌水(散水)します。<br>※発芽・発根の促進。線虫や土壌病害にも強くします。  |
| 追肥                 | 第1回・追肥<br>(播種後1ヶ月頃)               | <b>硫安 10kg</b> (状況によっては 20kg)<br>※最後の間引き(本葉6枚・土寄せの直後に <b>濃縮酵素液</b> 5.00倍を葉の上から散布。傷んだ茎葉を回復させ、根を伸ばします。<br><u>それから5日ほどしてから、硫安を散布して下さい。</u> これがこの後に増加する葉重への養分です。<br>[注意] 土寄せ時に直接硫安を施すと軟弱徒長に陥る事があります。   |
|                    | 第2回・追肥<br>(播種後50~60日頃)            | <b>硫安 20kg</b> (第1回から20~30日後、状態を見て)<br>※この後、葉数が増え、根径・根重が大きく詰って来ます。<br>※この時期に 根部への転流が強くなる転換期となります。<br><b>カルテックCa粒状</b> (または <b>畑のカルシウム</b> ) 20kg<br>※カルシウムはニンジンを充実させ、着色を進めます。<br>※状況によって、葉色薄く、葉数が少なく、土壌にチッソ不足<br>[EC:0.2以下] なら 硫安を追肥します。<br>※チッソが効いていれば [EC:0.3~0.4] カルシウムを追肥します。硫安+カルシウムの同時施用も効果的です。<br>硫安とカルシウムは同時に散布できます。ただし混ぜたままで、撒かず長時間を置くことはしないで下さい。<br>※その後、必要に応じて 第3回・追肥も施せます。   |
| 葉面散布<br>(適時、状況を見て) | 生長増進、根部の肥大                        | <b>濃縮酵素液</b> 500倍で 葉面散布 (黒葉枯病の時にも)   |
|                    | ニンジンの充実促進                         | <b>カルテックCa液状</b> 500倍で 葉面散布  |

春蒔き夏穫り：3~4月播種、6~8月収穫、冷涼地では5月播種、9月収穫 (MS五寸)

夏蒔き秋穫り：6~7月播種、10~12月収穫 (黒田五寸、金港、金時)

冬蒔き春穫り：暖地で 11~2月播種、4~6月収穫 (US五寸)